かわべ

隔月発行
河辺村公民館
編集
館報編集委員会
☎（089339）2311
佐川印刷KK
吉田町北小路☎2－0600

昭和五十六年の抱負

村長　稲田三二

皆さまお健やかに新春を迎えられましたこと心からお喜び申し上げます。

昨年は異変の年といわれ、予想外の事件が内外ともに数多く発生して、村行政の上でも大変心配されたことと思いますが、皆さまの暖かいご支援により大過なく越年できましたことをうれしく思います。

国家財政赤字増加の中で商工業の不振、農林水産業も夏の冷害、水害、風害と苦痛のダブルパンチを受けました。

さて今年、わが村は立村以来三〇才の壮年時代を迎えるに至りました。

先輩各位のご努力が今日の村をつくりあげていただいたものであり、心から感謝いたしております。この記念すべき年に「村の顔」となる庁舎建築をいたしたく、現在この企画を進めているところで、最善の場所に立派な建物をとプロジェクトチームを編成し努力いたしております。

なにとぞ皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

昨年十月の国勢調査の結果では、いまだ過疎現象とどまらず二千人をようやくとどめるにいたりましたが、過疎辺地にはまだ〈特別の国庫援助が受けられますし、本年は国土調査が全村完了の予定であり、開発計画作成に効果的な利用ができます。

県の農業基本計画も抜本的に再検討が加えられ、特に大洲喜多地区は広域営農計画が独自に進められ、国営開発事業の進行にそって特定地域としての諸施設が設置されつつあります。

さらに肱川流域の林業振興計画もようやく本年度をもって一応の完成の見込みがついております。

今後の問題は、住民の奮起であり人づくりだといわれています。

今日、行政に対する依存度は高く不況の原因追及や改善を自らはかるようなことは少なく、目先のことに走り長期対策は他人まかせでは、やがて将来の世代に取り返しのつかない事態になってしまう恐れがあります。

農業者の間で「今、土は泣いている、いや土は死んでいる」といった人もありますが、今なら河辺はまだ希望がもてます。

土に生きる農林業のわが村にとって、住民一人くが真剣に将来を考え国、県の効果的な援助も活用して、一歩く時間をかけて豊かな郷土づくりを進めていきたいと思います。

以上、新年にあたり抱負の一端を申しのべ、本年もわが村にとって幸多い年でありますよう心から祈念いたしましてご挨拶といたします。

お正月に新成人を祝う

決意もあらたに35名が出席

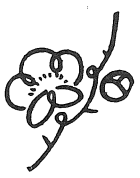
ひと足早い「成人式」が正月三日、午前十一時から集落センターで挙行されました。

今年は異常寒波に見舞われ当日も早朝から雪が降りはじめて、予定出席数があやぶまれ開式時刻を一時間変更しての式典となり、三十五名（対象六十七名）の成人者が晴れやかな顔で出席しました。

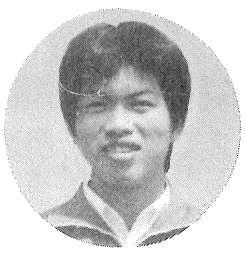
式典では稲田村長が成人することの宣言し〝アルバムと小梅苗〟の記念品が贈られました。

村長式辞に続いて来賓の方から祝福激励のことばがあり、お礼に成人者を代表して井本英人君が謝辞をのべて式典を終了しました。

記念行事としては記念撮影に続いて映画会を企画していましたが、時間の都合上とりやめて懇談会にうつりジュースで乾杯して、自己紹介やカラオケのど自慢が飛び出し、日の暮れるまで陽気にはしゃいで、二十歳の記念すべき日をおおいに満喫していたようです。



二十歳におもう



松井範泰

まだ正式に二十歳になったわけではないが、成人式を終えて考え方を改めなければと思うようになった。まだ学生である自分は、すでに就職し自分自身で生計を立てているものと違い、親のすねをかじり遊んでいるのかと思うと腹立たしさすら感じることもある。友人達の多くは、それぞれ職を持ち毎日を一生懸命に生きているのに比べ、大学の授業にも出ず下宿のコタツの中でぬくぬくとテレビを見て、レコードを聞き友人と話をして、日々をだらだらと送っている自分を思えばなんとなさけないことか。体ばかり大きくなり、頭の中は小学生と変ったものではない。そんな自分に自信さえ持っていたのである。卒業さえすればなんとか職にありつけるだろう。なんとか食っていけるだろうと思っていたのである。こんな人間が選挙権を持ち、社会の一員としてやってゆけるはずがない。親がこれまで一生懸命育ててくれたのに、両親の考えている息子の理想像とは程遠いものになっている。汗水流して働き稼いだ金を何のためらいもなく、何の感謝の気持ちもなく当然のように使っていることを考えると、自分が将来、子を持つ身となった時、今の父や母のようになさけないと感じることであろう。成人式は私にこういうことを考えさせてくれた。自分は今年の十一月十日で本当に二十歳になる。しかし二十歳になったからといって、今までと全く変るとは思えない。確かに社会的権利、社会的責任ができるわけだが、自分は大人であるという自覚のない者には権利を与える必要もなければ、またのすねをかじっている立場にあるということと、私自身〝成人〟と呼ぶにはあまりに幼なすぎるためでしょう。まだ大人の考え方などできそうにないし、大人らしい行動をとることもむずかしいと思います。だけど実際に成人式を迎えた以上、法的にも成人としてみなされるわけですから、それなりの自覚を持って行動しなければと思っています。

船田千鶴

今まで先輩たち誰もが迎えてこられた成人式を私も迎えたわけですが、まだその実感というものがありません。

それはたぶん、まだ私が学生で親の援助を受けて生活するのが常識にさえなっています。まるで牽牛と織姫が一年に一回しか会えないのと同様の境遇にいるようなものです。どこに安心できるわしい人を選べるかどうかを決定するのだから、しっかりしなければならないと決意をあらたにしています。

現在私は看護婦をめざして勉強していますが、まだまだ基礎の段階で何もできません。あこがれるほどなまやさしい仕事でもありません。この一週間の実習の間に患者さんの死に出会ったり、失敗して注意されたり、つらくしんどかったのは事実ですが「この道を選んで本当によかった」と思ったのも精神的に少し成長したのも事実です。

今はまだ成人としても看護婦としても、ハイハイを始めたばかりの赤ちゃんですが、少しずつがんばっていきたいと思っています。

最後に、私をここまで育ててくれた父や母、やさしくあたたかく見守って下さっている方々へ……

〝ありがとう〟

ふるさとに望む

内子町　名本高成

新年おめでとうございます。

早いもので、河辺中学校を卒業して十七年の星霜を重ねました。その間をかえりみると、数々の思い出が彷沸とわいてきます。それと同様、河辺にも幾多の出来事があったことと思います。

公民館より「ふるさとに望む」欄の原稿を依頼され、私は人から頼まれると断われず、愛敬よく返答して後で悔むという始末で、結局とりとめのないことを皆さんの前にさらすはめになりました。

幼い頃に家族で山や畑に出て仕事をした記憶が蘇ってきます。そしてそこには、いつも確実に家族があって安心できる雰囲気がありました。また中学の頃、親父と一緒に弁当を持って仕事に行くことがささやかな夢だったことを思い出します。ここに私的で卑近なことを取りあげたのは、家族の存在を確実に感じるだけのものが生活の中にあったと言うことです。

現在はどうでしょう。残念ながら夫と妻、親と子が別居を余儀なくされて生活するのが常識にさえなっています。まるで牽牛と織姫が一年に一回しか会えないのと同様の境遇にいるようなものです。どこに安心できる家族の存在がありましょうか。それに働き手の若者は都会に奪われ、田舎には高令者ばかりが増加しています。それでは農村の衰退を予期しているようなもので、寂しい想いをしてじっと耐えています。

唄の文句ではないが「帰って来いよ。」と言える〝ふるさと〟が欲しいものです。

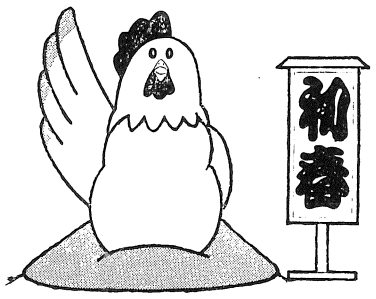
親、子、孫らが世代を継いでの家庭生活ができるような河辺村の実現に、村長さん、議員さん、村民の皆さんが三者一体となって智恵をしぼってもらいたいものです。

私は今、隣町の内子町にいますが、河辺村のことがテレビ新聞に出ると我が身のことのように心ひかれます。河辺の子と聞くと声かけてやりたいのです。

皆さんのご多幸をお祈りいたします。

あけましておめでとうございます

皆さまに親しまれる館報づくりをめざします
本年もどうぞよろしく!!



編集委員　名本勅滋・角藤政千代
佐川　敬・新　滋子
公民館職員一同

河辺村人口動態

（S．56．1月現）

世帯数	591
人口	2,167
男	1,108
女	1,059

（S．55．10国調）

世帯数	647
人口	2,009

（S．50．10国調）

世帯数	666
人口	2,368

やねばし

クリスマスの前夜、子どもへのプレゼントを買い足しに行ったとき、自分の本も一冊求めた。それは、自分自身への贈り物のつもりであった。

いくらか国粋主義的な父の下で、戦争のさなかに少年時代を送った私には、クリスマスも、サンタクロースもプレゼントも、何の縁もなかった。しかし、いま、格別、私は西洋かぶれでもないし、自分をかなり合理的な人間だとも思っているが、クリスマスはいいものだし、サンタクロースは必ずいると信じている。

私が自分に贈ったのは、「八木重吉詩集」であった。クリスマスの夜ふけ、私はそれを、ひとり、自分の書斎で読んだ。部屋はひえびえとしていたが、心の中はあたたかだった。

何度か、すでに読んでいるものではあったが、いいものは何度読んでもいいし、新しい発見もあった。幸せなクリスマスだった。

クリスマスが過ぎれば正月。

今年の年賀状には、牧水の歌を借りてつかった。

「けふもまたこころの鉦を鳴らしつつうち鳴らしつつあくがれて行く」

歳をとったせいか、新年になっても、なにか、一里塚ひとつ、ふっと通りすぎてふり返るような、忘れものしたふうな心のたゆたいを感じるほどのことで、別に、心機一転、一念発起……といったふうな清新なたかぶりは覚えない。

だが、一年の計は元旦にありという。今年の私の願望や計画を、重吉の詩を借りて記しておこう。

ほのかにも　いろづいてゆくこころ
われながら　あいらしいこころよ
ながれ　ゆくものよ
さあ　それならば　ゆくがいい
「役立たぬもの」にあくがれてはてしなく
まぼろしを　追うて　かぎりなく
こころときめいて　かけりゆけよ

（S）

卓球 バドミントン 大会を同時に開催

去る十二月七日、午前九時から河辺中学校体育館において卓球大会・バドミントン大会が同時に開催されました。

バドミントンは二度目だけに競技に対する新鮮さもあってか、声援者も多くひときわ注目を浴びて、各選手は好プレーを見せました。

また今回の反省として、選手が揃わず試合を棄権するチームも出ました。地区によっては選手層が限られていることから、選手の確保が困難という声も聞かれており、この現象を打開するには、大会をそれぞれ別に開催する必要に迫られているようです。

成績は次のとおりです。

◎卓球

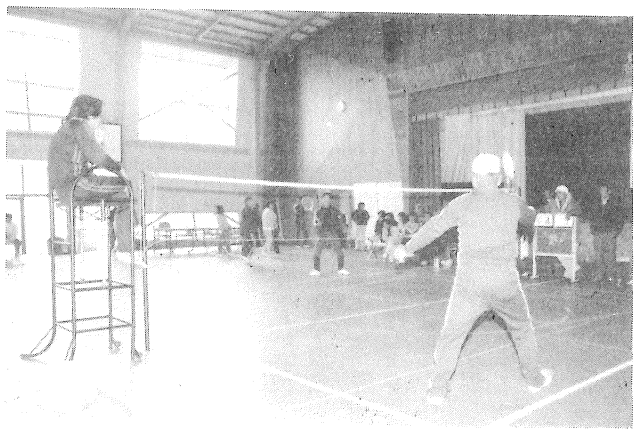
男子
一位 北平
二〃 植松
三〃 坂本
四〃 大伍

女子
一位 北平
二〃 坂本
三〃 植松
四〃 大伍

◎バドミントン

男子
一位 植松
二〃 大伍
三〃 坂本
四〃 北平

女子
一位 坂本
二〃 大伍
三〃 植松
四〃 北平



河辺の植物シリーズ (2)

「フキのとう」

フキのとうは、フキの花である。フキは、キク科では珍しく雌雄異株で、雌花は白色、雄花は白黄色をしている。

フキ属は、北半球に約二十種あるが、河辺に生えるフキは、大形のアキタブキと共に日本特産である。

フキのとうは、昔から早春の風物詩として知られ、食膳にも上る。「ほろにがき恋の味なり蕗のとう」（杉田久女）といった風味がある。

また、開花前のものをせんじて飲むと、せき止め、去たん、解熱、健胃等に薬効ありという。

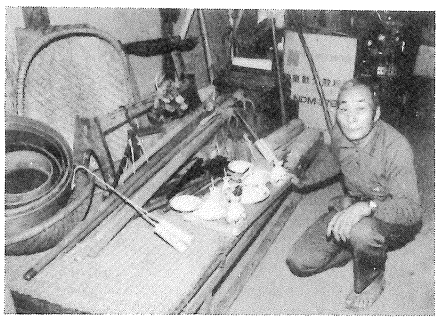
河辺でのフキのとうのはしりは、一月下旬頃で、やや湿った日当たりのよい路傍に、並んで顔を揃えるさまは、いかにも春が来たという感じである。

（東洵章）

ふるさとの行事（1月）　～道具休め～

農業者が毎日使う農道具を、一日休めて感謝の祭りをする〝道具休め〟というゆかしい伝承行事がある。

正月十六日、ヤブイリの日の朝、土間の適当な所に一枚のムシロを敷き、農道具一式を並べて餅や



で〝念仏の口あけ〟、鬼の金剛草履つくり〟などがあって主人や主婦たちは、お堂や当番の家に朝から行き忙しい一日である。

正月十六日には、今でも各部落

農業者の慎重さ真剣さもうかがえて筆者は先人に敬服するとともに、道具休めの意味がわかったような気がする。

終戦まではこの行事もほとんどの家で行われていたが、今では数少ない農家だけとなったのは残念である。

農業者が毎日使う農具は土やゴミを洗い流して並べ、そして修繕を必要とするものや不足するものを調べて、修繕新調して農繁期にそなえるもので、農業者の慎重さ真剣さもうかがえて筆者は先人に敬服するとともに、道具休めの意味がわかったような気がする。

終戦まではこの行事もほとんどの家で行われていたが、今では数少ない農家だけとなったのは残念である。

正月十六日には、今でも各部落で〝念仏の口あけ〟、鬼の金剛草履つくり〟などがあって主人や主婦たちは、お堂や当番の家に朝から行き忙しい一日である。

まごころ銀行 からお礼

昭和五十五年一月～同年十二月末までに村社会福祉協議会〝まごころ銀行〟に「香典返えしにかえて」と次の方々から多額のご寄附をいただきました。

アマンボなどを供えて祭る。農道具にも生命、霊性を認めての祭りであり道具に対する感謝の気持からのもので、まったく理屈ぬきのやさしい心のあらわれである。また農業者と道具の一日休暇日なのである。

大事な農道具は土やゴミを洗い流して並べ、そして修繕を必要とするものや不足するものを調べて、修繕新調して農繁期にそなえるもので、農業者の慎重さ真剣さもうかがえて筆者は先人に敬服するとともに、道具休めの意味がわかったような気がする。

終戦まではこの行事もほとんどの家で行われていたが、今では数少ない農家だけとなったのは残念である。

正月十六日には、今でも各部落で〝念仏の口あけ〟、鬼の金剛草履つくり〟などがあって主人や主婦たちは、お堂や当番の家に朝から行き忙しい一日である。

ご芳志に対し厚くお礼申し上げます。

松本　明殿・神山誠一郎殿
稲森雅生殿・二宮　嫩殿
大野富士男殿

寄附金額五二〇、〇〇〇円
合計現在高一、一八八、八一七円

社会福祉協議会
会長　中野保男

篤志家にお礼

昨年四月、河辺村老人クラブ連合会総会に匿名の方から「老人福祉に役立てて欲しい」と三万二千円の現金が届けられました。

ご尊名を知りたく八方手を尽しましたが未だにわかりません。皆様ご承知のとおり、公共事業等に寄附をお願いしても記念碑に刻入れしてくれとか、大衆の場で披露等が要求される人の多い現今、匿名でしかも老人福祉にとのご厚志に感動を受けました。

この尊いお金の使途については、老人福祉のために後に残る何物かにしたいと役員一同考えています。

光陰矢の如しのとおり、早くも一年近くなりましたが、遅ればせながら紙上を借りこの麗わしいご行為を皆様にご紹介し併せて、篤志家の益々のご健勝を心から祈念いたしましてご礼の言葉といたします。

河辺村老連会計
中山義高

働きながら学べる通信高校

― 入学生の募集 ―

働きながら、また家事を続けながら月二回程度日曜日を利用して高等学校卒業の資格が得られます。

修業年限は四年以上です。

出願資格

○中学校卒業程度の方
○高校中途退学の方
○学歴に関係なく自分の好きな科目を勉強してみたい方

出願期間

二月二十一日より四月十五日まで

問い合わせ先

松山市持田町二丁目二―十二
松山東高等学校通信制
電話(〇八九九)四三―〇一八七
電話・郵便いずれも可

免許証を確認しましょう

車を運転する時は、常に有効な運転免許証を携帯しなければなりません。

大切な免許証をうっかり更新することを忘れないようにしましょう。

免許証を紛失したり免許証の内容が読みとれないほど汚れたり、破損した場合は「住所地の警察署」で再交付の手続きをしましょう。

転居や結婚等で本籍や住所氏名が変った時は「新しい住所地の警察」で記載事項変更の手続きをして下さい。

（交通安全協会河辺支部）

三太君のしっぱい

河辺中学校　河本英樹

同和教育シリーズ (5)

〝同和教育をなぜ続けなければならないのでしょう〟

この村が同和教育に真剣に取り組み始めて一年半近くなりますが、「もう差別はしていないのに今さら同和教育をしなくても……。」という声をまだ聞きます。

差別はほんとうになくなっているのでしょうか？

その時その場で見すごされたり隠されたりして、我々には知らされていないままに終っていることが多いのです。

「○○のくせに、えらそうに」を言われんぜ」

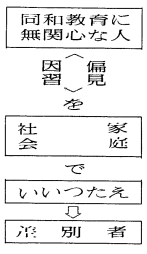
「あの人らには、めったなことあそこの人らには、かかわり合いにならん方がええぜ」

これらのことばの中に大きな部落差別の社会問題が含まれているのです。そのひと言がどのくらい大きな人権無視の問題をかかえているのか、それに気づかないところに差別があり、小声でささやかれるところに偏見のおそろしさがあります。

また発言者はそれが被差別者に対して大きな苦痛を与えていることを見過ごしているのです。

このような発言の裏には同和地区に対しての差別、さげすみ、おそれが根強くかくされています。

今まで同和問題は触れてはいけないもののような扱いを受けてきました。差別することは悪いと知りながらそれを積極的になくしていこうとする活動が行われていなかったのです。



基本的人権の尊重を基本原理としている日本国憲法が成立してすでに三十五年たちます。その精神から言えば同和問題も三十五年すぎた今日、すでになくなっていなければならないはずですが、一向に解決の方向に向っていきません。そこで国は昭和四十四年に同和対策事業特別措置法を作り、積極的にこの問題の解決にとりくんだのです。

愛媛県でも、市町村においてもこの同和教育に取り組み子どもも大人も正しく同和問題について認識して、一日も早くこの問題が解決することを願って努力しています。みなさんのご協力をお願いいたします。

（河辺村同和教育協議会）

芸

短歌

西年の夜明けと共にさんさんと
東の空より初日出でんとす　中本文江

切断の危機まぬがれしも吾が意志の
ままに動かぬ指をかなしむ　上林ヨシ子

四人の子ようやくつかむ幸せを
分ちてこよい深くこみあぐ　清水菊江

生ありてまた迎えたる新春を
振り返りつつ悲喜な思い出　関井恵美子

南天の葉末に光るしもどけのつゆ
はこぼれず朝のしじまに　古梅貞道

俳句

雑踏避け鐘にひかれて花手桶　田辺照代

手に誉める平癒祈願に千羽鶴

文

県入賞愛鳥標語　河辺中

特選
鳥の鳴く緑のまぶしい町づくり　三年　本山健勝

努力賞
鳥たちの歌声ひびく帰り道　二年　黒住淳子

消息

（自55・11・11 至56・1・10）

（出生）おめでとうございます

露内父盛光　長岡盛樹
稲谷〃昭　高木聖
中大成〃忍　上林美和

（結婚）末ながくお幸せに

（藤岡秀樹（橡谷）　河内驚子（横山中））
（藤田豊樹（日除）　橋本敦子（枚方市））

（死亡）お悔み申し上げます

川上上野久吉（八三才）
川上籔田芳房（六八才）
宮谷菊地助三郎（七六才）